

[報告]

配置換え看護師のための研修システムの問題点と改善の試み

京都府赤十字血液センター

喜多陽子，杉本 恵，清水和枝，伊藤俊之，藤井 浩

The problems and their improvement of the training system for the nurses transferred between departments

Kyoto Red Cross Blood Center

Yoko Kita, Megumi Sugimoto, Kazue Shimizu, Toshiyuki Ito and Hiroshi Fujii

抄 錄

固定施設と移動採血では構造設備と使用物品に差異があり、京都センター採血課に配置換えされた看護師は移動採血業務についての研修(以下追加研修とする)が必要である。このため「新人看護師研修システムにおける問題と改善の試み」(杉本ら、血液事業33：234、2010)¹⁾で導入したチェックリストの特徴を生かし、円滑な採血業務の習得を目的に移動採血業務において追加を必要とする項目についてチェックリスト(以下追加研修チェックリスト)を作成した。

さらに固定施設と移動採血の相違点一覧表を作成することにより、配置換え看護師は必要な研修内容を具体的に認識し、指導看護師はそれらを把握し的確な指導が可能となった。また固定施設と移動採血の個々の特徴を理解することで円滑に移動採血業務へ移行できた。

Key words: training system, transferred

【緒 言】

現在、京都センター母体では移動採血業務のみを行っている。府内3カ所の固定施設では献血ルームでの業務のみで移動採血は行っていない。しかし固定施設からは採血従事者として平日1～3名母体への応援体制をとっている。このため、母体採血課へ配置換えされた看護師は、人間関係構築に戸惑うことなく初日から移動採血業務に従事可能であり、即戦力となる。しかし、移動採血と固定施設では構造設備や使用物品に違いがあり、応援時には経験しない採血前検査業務と採血責任

者業務を習得する過程において、配置換え看護師はさまざまな問題や不安を抱えていた。

【方 法】

固定施設からの配置換え看護師と指導看護師を対象に、それぞれの立場からどのような問題を感じているのか、配置替え時の業務指導に関する記述式アンケート調査を行い、問題点を抽出した。この結果をもとに新人看護師研修用チェックリストを改訂し、追加研修チェックリストを作成した。

【結 果】

1. 配置換え看護師から見た問題点

- (1) 採血前検査業務では献血バスから離れた場所で作業するため、疑問があってもその場ですぐ確認できず後回しになりやすい。また、疑問点の解決は相談できる(満足できる回答が得られる)スタッフが限定される。移動採血の採血前検査についてのマニュアル、固定施設では使用したことのないタブレットPCの取扱説明書がない。このような不安や問題を感じた中で、同じ採血業務を行っているにもかかわらず固定施設と移動採血は違うという感覚が芽生えていた。
- (2) 指導に関しては、手順書等に基づく指導が口頭伝達に終始していること、業務の流れ全体を把握できず研修の終了が明確でない、つまり必要な項目について確実に網羅できているとは言えない非効率的な指導であると感じていた。

2. 指導看護師から見た問題点

- (1) 配置換え看護師それぞれの経験・知識について指導看護師ごとの認識に差があるため、個々に必要な部分の指導が充分にできない。
- (2) 配置換え看護師が理解していると判断する基準に統一性がない。
- (3) 時間的に十分な指導ができない。
- (4) 指導看護師の知識不足・経験不足のほかに、指導看護師が日々交代するため継続性がなく、指導すべき内容を把握しにくい。

3. アンケートから抽出された対策

このように配置換え看護師側、指導看護師側双方が研修の必要性を感じ、効率的な研修方法を求めていた。そこで、抽出されたこれらの問題点を改善するため、以下の2点のチェックリストを作成し活用するという対策を講じた。

1) 追加研修チェックリスト

業務内容で分類し、項目を細分化して²⁾、採血責任者業務版(表1)と採血前検査業務版(表2)の2種類の追加研修チェックリストを作成した。

理解度確認基準欄※①でそれぞれの項目に対して細かく到達目標をあげ、配置換え看護師が習得

すべき内容を明確にした。指導看護師が説明した内容について、説明済欄※②に○印をし、翌日の指導看護師に引き継ぐ。塗りつぶされていないのは固定施設と何ら変わりなく経験済の部分である³⁾。

説明をした項目について、最初は○印を記入していたが、次第に指導看護師が日付を記入するようになった。固定施設とまったく同じ場合は「共通」※③と記入し、固定施設での今までの経験に積み重ねていくという実感が持てるよう工夫した。

口頭理解確認欄※④では、実際にはその業務は行っていなくても頭の中では理解でき、実務に生かせると判断できる状態を習得済みとした。たとえば車内電源が全く確保できなくなり縮退運用をしなければならない状態のときなどがあげられる。

口頭理解確認欄の横に実践理解確認欄※⑤を設けることにより、一目で進捗状況が把握できる利点をそのまま活かしてある。また、参照すべきマニュアル欄で手順書を確認しやすくした。

コメント欄※⑥は不明な点を記録にとどめることで翌日の指導看護師に引き継ぎ、より具体的な指導が可能となった。

2) 固定施設と移動採血の相違点一覧表

配置換え後、相違点がはっきりしないことで漠然と不安を感じていた。それを軽減するために固定施設と移動採血の相違点一覧表(表3)を作成した。

固定施設でも使用している同じ標準作業手順書に基づき、衛生管理(C3C001)、原料資材管理(C3C002)、構造設備・機器管理(C3C003)、採血管理(C3C005)、それと統一システム関連の五つの大項目に分類した※⑦。

採血管理(C3C005)の中では、相違点※⑧として使用物品のちがい、搬出時の伝票出力、撤収作業の三つの項目をあげ、固定施設と移動採血の対比ができるようにした。さらにDマニュアルのどこに書かれているのか、参照マニュアル欄※⑨に明示し確認しやすくした。

表1 追加研修チェックリスト：採血責任者業務版(抜粋)

I. 移動採血出発前の準備時に採血責任者について習得する項目									
効果：事前に知っておく、または実施しておくことは、視覚(見学)より習得する場合に進めやすい、現状と直結させやすい。					説明済 ※②	口頭理解確認 ※④	実践理解確認 ※⑤	コメント (指導者) ※⑥	コメント (異動者) ※⑥
1 システム	CFカードの作成	・CFカードを使用して最新化する方法を説明する。 ・CFカードに残存するファイルを削除し、本日のCFカード作成する方法を説明する。	システム共通マニュアル	CFカードで最新化する方法が理解できる。 CFカードに最新情報を入れることができる。					
		・採血バッグを各バスで使用していること、バスごとに採血資材持出入力(登録)をする必要があることを説明する。		配車されるバスの採血資材持出入力(登録)ができる。					
	システムの接続	・統一システムLAN接続について説明する。 ・縮退運用について説明する。	移動採血統一接続マニュアル(採血)	正しく接続できる。					
2 採血指図書	採血指図書の必要性	・採血指図書に記入されている内容を理解し、準備する。		採血指図書の必要性を理解し、準備することができる。	共通 ※③				
3 指示書	指示書の活用	・指示書の必要性を理解し準備する。		指示書の必要性が理解できる。					
4 積み込み	物品準備	・採血業務日誌の物品欄を確認、採血担当者に指示する。必要物品を準備する。 ・積み下ろしについて説明する。	採血業務日誌 保管出納管理確認票(移動用)	物品準備、積み下ろし物品について理解できる。					
		・採血業務日誌の物品欄を読み合わせ、目視確認の点検を説明する。		必要物品を目視確認し、チェックを行うことができる。					
	読み合わせによる確認	・忘れ物が生じた場合、移動採血場所によっては対処が困難であり、採血業務に支障をきたすことの認識を持つ。							
5 検体原料の引渡し	稼働日程表および連絡表の活用	・過去の採血状況履歴および設営の特徴・注意点等を把握することが可能である。 ・受付時間検体原料受渡時間と採血業務の関わりを説明する。		稼働日程表や連絡表を活用することができる。					
		・検体原料の引渡しについて説明する。		検体・原料の引渡しマニュアル(移動採血)	検体原料引渡しについて理解できる。				

表2 追加研修チェックリスト：採血前検査業務版(抜粋)

I. 移動採血出発前の準備時に採血前検査担当者について習得する項目						説明済 ※②	口頭理解確認 ※④	実践理解確認 ※⑤	コメント (指導者) ※⑥	コメント (異動者) ※⑥
効果: 座学や事前説明だけではイメージしにくい状況が、実務に沿い視覚から入ることにより理解しやすくなる(視認性)										
分類	項目	説明・指導内容・目的 (どこまでできるかの確認)	参照	理解度確認基準 ※①	説明済 ※②	口頭理解確認 ※④	実践理解確認 ※⑤	コメント (指導者) ※⑥	コメント (異動者) ※⑥	
1 必要物品の準備	採血業務日誌の下欄のチェック表の活用	・保管棚や倉庫、保冷庫などから必要物品を持ち出す時は、決められたルールを順守する。	必要物品マニュアル (移動採血)	必要物品の持出ルールが理解できる。						
		・温度管理と記録を要する物品があり、その記録に関しては指定された担当者が行う。		温度管理とその記録を要する物品が理解でき、記録の担当者が誰か理解できる。						
		・具体的な記録方法を説明する。	週間勤務表 稼働日程表 連絡表	具体的な記録方法が理解でき実施することができる。	共通 ※③					
		・必要準備数は、週間勤務表に記載されている採血目標数および過去の履歴(場所コード連絡表)を参考とする。		準備数の考え方が理解でき、準備することができる。						
		・当日の準備数について考え方を説明し、実際の準備を行う。								
2 積込み	バス内の準備	・採血ベッドに乗っている物品を床に下ろす。 ・ごみ袋をごみ箱へセットする。	PDAおよびバーコードリーダーの準備を行い、日常点検記録の記入を行う。	バス内での準備が理解できる。						
		・具体的な記録方法を説明する。		PDAの日常点検記録の記入方法が理解できる。	共通					
		・必要物品の目視確認による点検は忘れ物を防止する。	採血業務日誌	必要物品を目視確認し、チェックを行ふことができる。						
		・忘れ物が生じた場合、移動採血場所によっては対処が困難であり、採血業務に支障をきたすことの認識を持つ。		必要物品を必要数持ち出し、忘れ物をしないこと。						
	読み合わせによる確認	・場所コードによる連絡表を参考し現場のレイアウトを把握する。	連絡表	稼働日程表および連絡表を活用することができる。						
		・過去の採血状況の履歴および特徴・注意点等を把握することが可能である。								
		・受付時間や検体原料受渡時間と採血業務の関わりを知る。	稼働日程表							

表3 移動採血と固定施設の相違点一覧表

大項目※⑦	中項目※⑧	固定施設	移動採血	参照マニュアル※⑨
衛生管理 (C3C001)	・排出方法	管理課担当者が感染性廃棄物を搬出する。	1) 採血前検査担当者が感染性廃棄物一時保管場所へ保管する。 2) 当日最終に処理した採血前検査担当者が確認し、伝票を起票する。	感染性廃棄物取扱いマニュアル (京都移動) (C採血D0012)
清掃	・清掃		車窓、手洗いタンク清掃を追加	清掃手順マニュアル (移動採血) (C採血D0010)
原料資材管理 (C3C002)	・持出入力	当日使用数に不足なら「持出し入力(登録)」をする。	1) 持参するバッグ数を出発前にその施設番号で入力(登録) する。 2) 一日終了後、採血バッグ数を「採血資材持ち出し入力(修正)」で採血+減損+不良数の合計に修正する。	
構造設備・機器管理 (C3C003)	・積忘れ・故障	故障時採血責任者に報告する。	忘れ物がないよう出発前チェック表を読み合せる。 積忘れや故障に気づいた時点で採血責任者に報告する。母体に電話連絡し、現場まで持って来てもらう手配をする。	異常または故障発生時の対応マニュアル (採血) (C採血D0030)
採血管理 (C3C005)	・使用物品の違い	K-4500	ヘモキュー マイクロキュベット	必要物品マニュアル (移動採血) (C採血D0050)
	・搬出時の伝票出力	エイトチェック 5枚出しし、1枚は管理課控え	ヘモトロール 4枚出しし、推進課に渡す1枚は登録課に搬出される。 (推進課控えは不要)	検体・原料の引渡しマニュアル (移動採血) (C採血D0052)
システム接続	・撤収作業		撤収する。	移動採血・出張採血時の撤収作業マニュアル (C採血D0056)
			2台1稼働時や採血前検査場所が離れたときにアクセスポイントをLANで延長する方法など。	移動採血統一システム接続マニュアル (採血) (C採血D9002)

【考 察】

京都センターでは平素から固定施設と移動採血の間で応援体制をとっている。このことは配置換え看護師にとっては配置換え初日から採血業務に従事可能である上に即戦力となり、人間関係構築にも大いに利点がある。配置換えが複数名あったとしても効率的に人材が確保できるが、普段の応援での様子から指導看護師は配置換え看護師の理

解不足な点を見落とす可能性があることも判明した。

追加研修チェックリストの活用で、配置換え看護師にとって必要な研修項目をそれぞれが認識し、指導看護師が勤務によって日々交代したとしても研修の進捗状況を客観的に把握して個別に必要な部分の継続的な指導が可能となった⁴⁾。

相違点一覧表では、日々の多忙な業務の中でも

配置換え看護師のみならず指導看護師も手順書を確認する姿が見られ、自己習得意欲が高まった。

今回の改善の試みにより、固定施設と移動採血の違いを双方が共通認識することで、配置換え看護師は円滑に移動採血業務へ移行することができた。

これまでの個々の業務経験や積極性には個人差が見られる⁵⁾。同じ教育システムで同じ指導をしたとしても当人の積極性や姿勢で差が生じる。そんな中でも最低限必要な部分については確実に習得できるようにタイムリーに個人に合わせた指導が必要である。ペーパー上だけのチェックではな

く、実践に生きた研修にすることが追加研修の目的である。

今後の追加研修にあたっては、このような個人差を考慮して継続的に指導できることが課題である。

【まとめ】

追加研修チェックリストと相違点一覧表を作成し活用することによって、配置換え看護師は円滑に移動採血業務へ移行することができた。

今後も採血課全体で追加研修システムの検証を続け、更なる改善を図っていきたい。

文 献

- 1) 杉本恵ほか：新人看護師研修システムにおける問題と改善の試み。血液事業, 33: 234, 2010
- 2) 川口敦子ほか：新人教育について—プリセプターシップを導入して—。血液事業, 32: 19~28, 2009
- 3) 石川順海ほか：採血責任者のための短期研修プロ

グラムの作成と実践評価。血液事業, 32: 195,

2009

- 4) 田村聰ほか：新規教育訓練のマニュアル化及びその運用について。血液事業, 32: 236, 2009
- 5) 川口泉ほか：看護師教育システムの導入—ラダーリア開発プログラム—。血液事業, 32: 194, 2009